平成２７年４月１５日

関係各位

船橋希望学舎
世田谷区立船橋希望中学校
校 長　 徳　永　啓　介

平成２６年度学校関係者評価結果報告書を受けた改善方策

学校関係者評価委員会の皆様方には、１年間にわたり熱心な分析・検討を経て、「学校関係者評価結果報告書」をご提出いただきました。その労に深く感謝申し上げますとともに、次年度の学校経営にいかしてまいりたいと存じます。

関係者評価委員の皆様からは、「全体として生徒・保護者ともに『評価が高い項目』が多く、今年度も成果の上がった１年であった。これは、昨年度の調査結果を踏まえ、『平成２５年度学校関係者評価委員会の報告を受けた改善方策』を作成し、広報活動の充実を図るなど、校長のリーダーシップのもと、教職員が様々な努力をして改善を図った結果である。」という評価をいただき、総合所見から以下の課題を提言していただきました。

１．生徒の「進路指導」について
２.「学力」について
３.「世田谷９年教育の『学び舎』の活動」について

これらについて、平成２７年度は下記のような改善方策を策定し、実践していきます。

記

１．生徒の「進路指導」について

進路指導については、「改善方策」の「２．進路指導における情報提供の改善」で示された方策に従って、進路指導の充実を図ってきたが、生徒アンケートでは、昨年度より肯定的評価が若干減少し、否定的評価が増加して、３項目とも「課題のある項目」となった。また、個別の学年では否定的評価が 50 ％前後となっている。具体的には、「将来の生き方や進路について考えさせる授業がある」の肯定的評価が 69 ％（１年 52 ％、２年 78 ％、３年 79 ％)、否定的評価が 24 ％（１年３４％、２年 16 ％、３年 19 ％)、「将来の生き方や進路について先生と相談する機会が十分ある」の肯定的評価が 47 ％（１年 25 ％、２年 44 ％、３年 73 ％)、否定的評価が 42 ％（１年 55 ％、２年 45 ％、３年 23 ％)、「進路に関する情報が十分提供されている」の肯定的評価が 54 ％（１年 28 ％、２年 54 ％、３年 80 ％)、否定的評価が 34 ％（１年 52 ％、２年 33 ％、３年 16 ％）という結果であった。毎年、学年別の結果に大きな差異が見られる状況になっている。

(1)　「将来の生き方や進路について考えさせる授業がある」に対しては、１年生で否定的評価の割合が高い。それは、総合的な学習の時間として実施している

職業講話を３学期、職業調べを冬休みに実施していることも要因となっている。今年度は、「私たちの進路」の活用方法を検討し、道徳、特別活動、各教科の授業等全教育活動を通して、日頃から、「将来の生き方や進路」について考える機会を設定していく。

(2)　「将来の生き方や進路について先生と相談する機会が十分ある」、「進路に関する情報が十分提供されている」に関しては、１、２年生で否定的評価が高い結果が続いている。(1)の方策に示してあるように、「将来の生き方や進路」への意識化を高めることにより、年間で設定している面談期間だけでなく、いつでも誰にでも進路について相談できる雰囲気を作っていく。進路情報に関しては、上級学年が行っている進路に関する取り組みを学年便り等を通して紹介していく。

２.「学力」について

生徒は「授業の内容はよく理解できる」「先生は黒板の書き方やプリントを工夫し、わかりやすい指導をしている」の評価は高く、授業を通して学力がついていると感じている。しかし、保護者は「本校は、授業をとおして、子どもたちに学力がついている」の肯定的評価は、昨年度から少し改善が見られたが、否定的評価については改善が見られず、「課題がある項目」となっている。

(1)　学力の三要素として、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」「知識・技能を活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力の育成」「主体的に学習に取り組む態度」が示されており、このバランスをとることが大切であることを、保護者会、教科別説明会、学校便り、学年便り等を通して保護者に啓発するとともに、日々の授業で実践していく。

(2)　家庭と連携して基礎的・基本的な知識・技能の定着、基礎学力の向上を図る。１、２年次には、フナキボミニマムを定期テスト前に実施し、基礎基本を定着させるための学習習慣を身につけさせる。

(3)　思考力、判断力、表現力を育成するため、教育目標である「深く考え行動する、学ぶ意欲のある生徒」を意識させ、授業では、話を静かに聞くだけでなく、常に疑問をもち、解決策を考え、話し合い活動等を通して、自分の考えを相手に分かりやすく伝えようとする力を育成する。

３.「世田谷９年教育の『学び舎』の活動」について

今年度は、「学舎あいさつキャンペーン」期間に、中学生が小学校での「あいさつ運動」に参加するなど、子どもたちの交流を増やした。ＰＴＡでは、学舎合同ＰＴＡ家庭教育学級を実施した。また、保護者・地域には、「広報活動の充実」の成果により「学び舎」の活動が認知されてきている。しかし、アンケート集計結果では、まだ、生徒・保護者・地域とも「課題のある項目」となっている。改善方策としては、現在行っている取り組みを継続させ、成果をＨＰ等を活用し広報する。また、子どもの交流については、現在行っている「子ども駅伝」の取り組み」以外にも部活動を通した交流について検討していく。